



藤原が大学院時代に携わったサッカーロボット  
このロボットでRobotWordCupに出場した

## 事業化計画書

原発／ウイルス／介護／宇宙に貢献！

# サッカーロボ株式会社

創業日 2015年6月10日

創業者 藤原 広光

## 2030年までに サッカーワールドカップチャンピオンに勝つ 人工知能サッカーロボットを真剣に開発する

---

ロボットが人と「サッカー」をする事は、極めて高度なタスクです  
例えば、リアルタイムに環境が変わる状況下で味方と敵を認識し  
人と接触しても人を傷つけないための素材（人工皮膚など）や  
45分間動き続けることができる小型バッテリーの開発など  
総合科学技術が結集しなければ達成できません

もし、そんなサッカーロボットが誕生したならその応用範囲は無限大です  
分かり易さ、インパクトから目指すロボットを会社名にしました

# 人が作業困難な場所へロボットを派遣 ロボット開発及び派遣業で社会貢献

---

サッカーロボットの応用について  
原発事故の問題を抱える我が日本国  
放射線の恐怖と隣り合わせに作業をする人たちがいます  
また、世界に目を向けるとエボラウイルス  
高度な知識と使命感を持つ崇高な存在である国境なき医師団  
そんな人達を守りたい  
ロボットだからできる仕事があります

## コアコンピタンスは 学習アルゴリズムによる非線形システムの構築 人工知能によるシステムモデリング提供が主業

---

総合科学技術の結集によるサッカーロボットの開発  
他の研究機関、企業とのコラボによって達成されるものですが  
当社が主導する立場として重要な技術を担うのが「人工知能」

「学習アルゴリズム」「非線形システム」など難しい言葉ですが  
簡単な言葉で説明すると  
「人のプログラミング能力では作れないもの」=「生物の脳など」  
を構築する仕組みの開発とその提供が主業です

# 4 事業化に必要なもの

## 人・金・もの

---

大学や研究機関、民間企業と連携し「人・もの」を調達します  
特に、私の出身大学院の所属研究室「小笠原研究室」と連携を図ります

当面はビジネスとしての収益性が見込めないために  
研究開発費を調達する必要があります  
私がこれまで経験してきた資金調達の経験を生かし「金」を調達します

## 大学院時代の研究経験から 私は40歳でロボット会社の社長になる！

---

40歳でロボット会社設立という夢をずっと公言してきました  
その目標達成のために今を生きています  
今、まさにその40歳になり、その大きな一歩を踏み出す事を決意しました  
「サッカーロボ株式会社」は、私の「人生の夢」そのものなのです

そんな私の強みは  
大学院時代に専攻していたロボット工学及び人工知能の「専門知識」  
社会人経験無く起業し現在に至る15年もの「経営経験」  
これまでVCや事業提携企業などから2億円以上調達した「資金調達能力」

# 6 創業者の沿革と受賞

## 「印刷」が得意なIT企業を経営 15期目を迎える(株)フィット代表取締役社長

### 沿革

- ・ 2000年 3月 (25歳) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士前期課程卒業し起業  
ロボティクス講座 (小笠原研究室) 研究テーマ: 人工知能 (ニューロン) とRoboCup  
有限会社フィット設立 (資本金300万円)
- ・ 2001年11月 (27歳)
- ・ 2006年 4月 (31歳) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 大学発ベンチャー企業認定
- ・ 2006年 7月 (31歳) 株式会社化 (資本金3000万円)
- ・ 2006年10月 (32歳) 池田銀行主催 池銀ニュービジネス助成金地域起こし大賞 大賞受賞
- ・ 2007年 8月 (32歳) 経済産業省主催 第2回ものづくり日本大賞 優秀賞受賞
- ・ 2007年10月 (33歳) ベンチャーキャピタルを中心に新株発行により9600万円調達
- ・ 2009年 1月 (34歳) 財務体制強化のため既存株主を中心に新株発行により3900万円調達
- ・ 2015年 1月 (40歳) コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)と資本提携し新株発行により4200万円調達  
現在 資本金1億3150万円 (資本準備金8850万円)

### 賞

- ・ 2006年 池銀主催ニュービジネス助成金地域起こし大賞 大賞受賞 (167社のプランから優勝し賞金300万円獲得)
- ・ 2007年 経済産業省主催 ものづくり日本大賞 優秀賞受賞
- ・ 2010年 関西フロントランナー大賞2010受賞

# サッカーロボ株式会社 アクションスクリプト

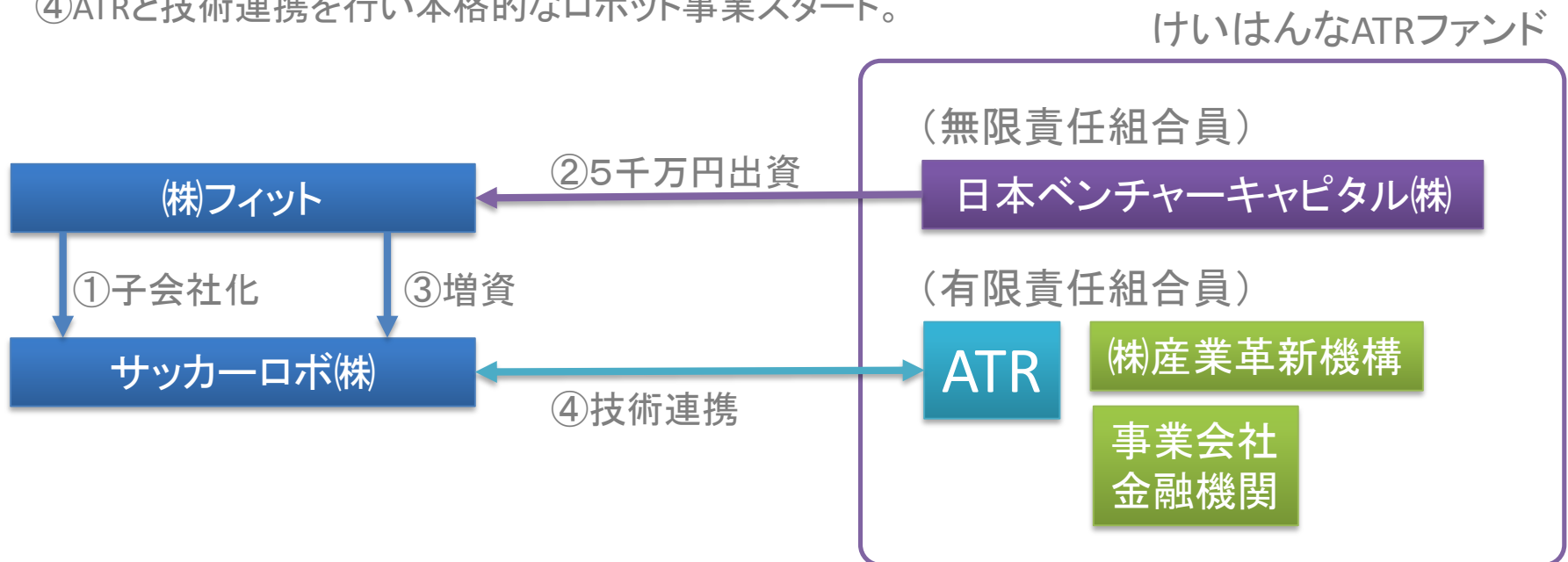
---



## 2016年春 (株)フィットの100%子会社化し けいはんなATRファンドから5千万円の資金調達

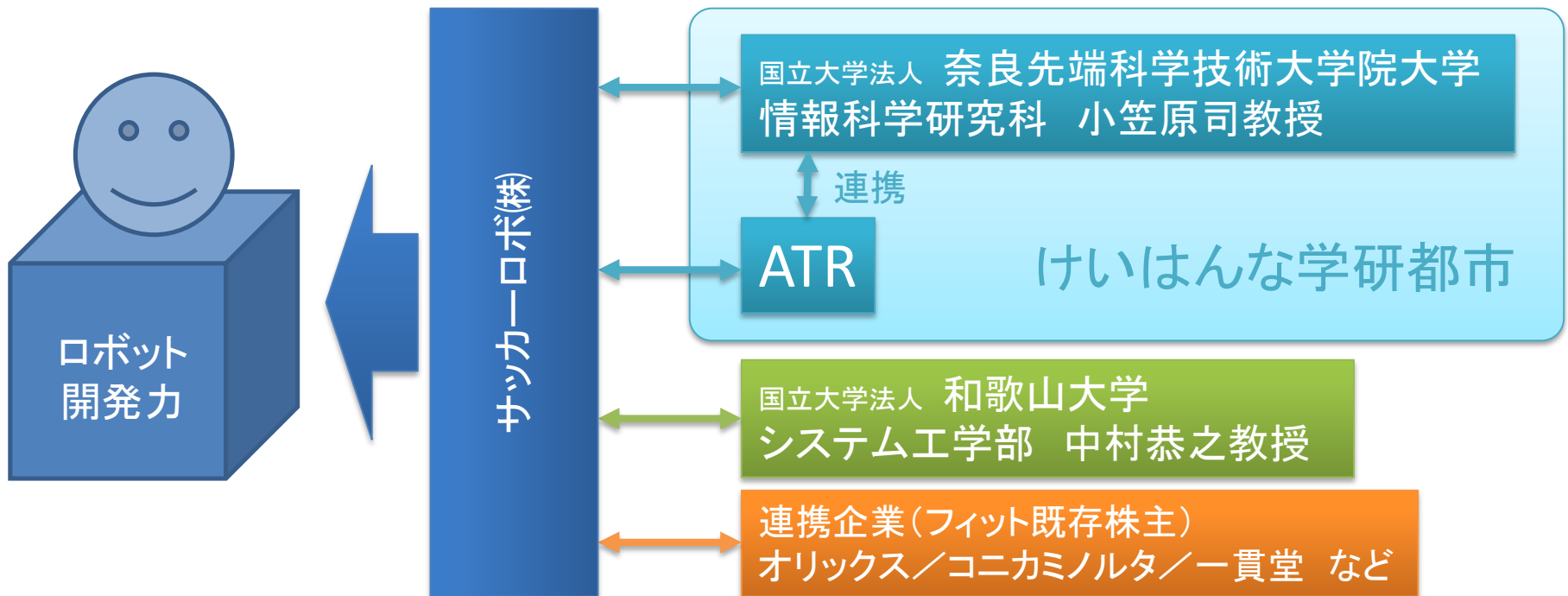
けいはんな学研都市の中核的な役割を担う(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)が事業化支援のため2015年2月10日に設立されたファンドから出資のお話を頂いています。

- ①サッカーロボ(株)を(株)フィットの100%子会社化。
- ②けいはんなATRファンドから(株)フィットへ5千万円の資金調達。
- ③(株)フィットからサッカーロボ(株)へ増資。
- ④ATRと技術連携を行い本格的なロボット事業スタート。



## 奈良先端科学技術大学院大学と共同研究へ

ATRと共にけいはんな学研都市の中核的な役割を担う代表の母校・奈良先端科学技術大学院大学、出身研究室である現情報科学研究科長・小笠原司教授と共同研究を行うことで合意し、当時の直接指導頂いた現和歌山大学・中村恭之教授とも連携することで合意しています。また、(株)フィットの既存株主である企業ともロボット事業について連携を行う予定です。これらの力を基にロボット開発力を高めていきます。



## まずは、受託開発から始動

(株)フィットの既存株主である(株)一貫堂・長屋社長からマンションなどに設置する「管理人口ロボット」の受託開発を受注しております。一次開発資金を(株)一貫堂が用意。サッカーロボ(株)が管理人口ロボットを開発し製品化。(株)一貫堂が市場へ販売。販売実績に応じたレベニューシェアでサッカーロボ(株)も収益を上げるビジネススキームです。

2017年3月までに製品化し、2017年4月から販売開始予定です。

